



# 東深沢中だより

<https://school.setagaya.ed.jp/thiwa>

みしまの森学舎  
世田谷区立東深沢中学校  
校長 本田 仁  
令和7年11月28日  
第7号

## 知らないことから生まれる偏見(人権週間)

校長 本田 仁

来月の12月10日は「世界人権デー」です。1948年のこの日に国際連合で「世界人権宣言」が採択されました。「すべての人は、生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等である」とうたわれたこの宣言は、今も世界中の人々にとって、人権の基本となる大切な指針です。日本でも毎年12月4日から10日までを「人権週間」と定め、全国で人権を尊重する取組が行われています。

「人権」という言葉には「誰もが安心して、幸せに生きられるようにすること」という意味もあります。人権は、特別な人だけのものではなく、すべての人に平等に与えられた権利です。友達を思いやること、相手の気持ちを考えて言葉を選ぶこと、困っている人に優しく接することなど、これらの行動こそが、人権を守る第一歩なのです。

皆さんは「ハンセン病」って聞いたことがありますか。日本の歴史の中でも、人権が軽んじられた時代があります。その一つが東京都の人権課題の一つである「ハンセン病」への差別と偏見です。ハンセン病は、かつて「らい病」と呼ばれ、正しい知識が広まっていなかったために、「うつる」「怖い病気だ」と誤解され、多くの患者が社会から隔離されました。家族や地域から離され、長い間、一般の社会の中で生きることを許されなかったのです。

しかし、患者の方々は、つらい差別の中でも「自分たちは人として生きる権利がある」と声を上げ続けました。やがて、多くの医師や支援者、市民がその声に耳を傾け、国の制度や社会の意識を変えていく運動が広がっていきました。2001年には国が「隔離政策は誤りだった」と正式に謝罪し、現在も患者や家族の尊厳を回復するための取組が進められています。

この運動を支えた方の一人に、熊本県の「菊池恵楓園（きくちけいふうえん）」で暮らしていた入所者の方がいます。その方は、「私たちは病気ではなく、人間として見てほしい」と訴え続けました。社会の誤解や偏見をなくすために講演を行い、学校を訪れて子どもたちに自分の経験を語りかけたそうです。その言葉には、長い苦しみの中でも失わなかった「人間の dignity（尊厳）」がありました。

その姿から私たちは、「人を見た目や病気で判断せず、心で向き合うことの大切さ」を学ぶことができます。

現代の日本では、ハンセン病はすでに治る病気であり、感染の心配もありません。しかし、病気そのものよりも恐ろしいのは、「知らないことから生まれる偏見」だと言われます。正しい知識を持ち、相手を思いやる心を育てることが、真の意味で人権を守ることに繋がります。

本校の重点目標の一つに、「『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる』を柱として、多様性を肯定的に捉える高い人権感覚と人権意識を醸成し、ちがいを当たり前のこととして、多様な価値観を受け入れ、積極的にかかわり、つながり、共感・協働できる柔軟な人間関係形成力を確実に身に付けさせる。」という項目があります。

身近な生活の中にも人権を考えるきっかけはたくさんあります。例えば、SNSでの何気ない言葉、日頃のちょっとした態度によって、相手を傷つけてしまうことがあります。「その言葉を言われたら自分はどう感じるだろう」と立ち止まって考えることが、人権を大切にする第一歩です。

人権を尊重する社会とは、「すべての人が自分らしく生きられる社会」です。見た目や考え方、感じ方が違って、互いを認め合うことができる社会こそ、真に平和で豊かな社会だと思います。違いを受け入れる勇気と、相手の立場に立って考える想像力を、子どもも大人もしっかりと意識した社会が素敵ですね。

ハンセン病と向き合った人々が見せてくれた「静かな勇気」と「人間への信頼の心」を受け継ぎ、思いやりと尊重にあふれた社会を共に築いていきましょう。

# ヒガシのアオハル



## 学芸発表会（合唱コンクール）

今年も10月25日（土）学芸発表会が開催されました。

行事自体は2学期ですが、準備は1学期の6月ごろから始まっています。合唱コンクールに向けて1学期から会議を重ね、去年よりも良い合唱コンクールを作ろうと頑張っている文化行事担当の先生方には本当に感謝しています。また、生徒も同じく6月ごろに学芸発表会実行委員がクラスから2名ずつ決定します。休み時間や放課後の集まりが多く、大変であると分かっているにも関わらず、立候補をして選ばれる生徒たちにも感謝です。このように毎年行われる学芸発表会はたくさんの教員・生徒の頑張りから生まれるものであると改めて感じます。

毎年2学期になり本格的な合唱練習が始まると、合唱指導がより楽しく感じられます。同じ合唱の授業のはずなのに学年・クラスで全く違う考え、気持ちをもって練習に励んでいる生徒とともに合唱を作り上げることが、とても楽しいし、とても難しいからです。毎年たくさん頭を悩まされますが、本番審査員席から聴くみんなの合唱を想像すると、頑張らなければ！と思えます。中学生の合唱には、人を元気にしてくれる不思議な、そして大きなパワーがあると私は感じています。

本番では私は審査員席から歌を聴いていましたが、どのクラスも本番が1番良い合唱でした。本番は「勝ちたい」とか「やり切ろう」とか、みんなの想いが歌に乗って届く感じがして、たまらなく感動しました。また、リーダーたちを中心にクラスで工夫したり、時にはぶつかったりしながら作り上げる合唱はこんなにも人の心を揺さぶるのだと改めて感じさせられました。各学年、行事の準備と重なりながらの練習でしたが、本当に頑張って合唱を作り上げたと思います。この経験はみんなの記憶に残りながら、みんなを強くしてくれるはずです。

一生懸命になってくれてありがとう。感動を、ありがとう！

（音楽科 平光 真於子）



### ◆◆ 茶道体験 ◆◆

11月7日（金）に東深沢・等々力コミュニティの方々にご協力いただき、3年生を対象に「日本語」の授業の一環で茶道体験をしました。

所作に込められた「礼儀の正しさ」や掛け軸等から感じる「季節の楽しみ方」等日本文化に触れる貴重な時間となりました。



### ◆◆ ふれあい体験 ◆◆

3年生の家庭科では「家族と家庭生活」という単元で家族の役割や幼児の生活について学習を進めていきました。赤ちゃんの体や心の発達について教科書から学びましたが、実際に触れ合う体験を通じ、言葉では伝えきれない赤ちゃんの温かさや、力強い生命力を肌で感じ取ることができたようです。生徒たちの表情が、緊張から柔らかな笑顔へと変わっていく様子が印象的でした。今回の学びが自分自身の成長を振り返り、小さな命を守り育てる責任の重さを実感する機会となりました。生徒たちからは「思ったより重かった」「緊張した」といった声が聞かれ、自分たちもこうして大切に育てられて来たのだという、家族への感謝の気持ちも芽生えていたようです。

学校関係者評価アンケートにご回答いただき、ありがとうございました！